

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別		
発達心理学Ⅱ(行動観察法) Developmental PsychologyⅡ (Method in behavioral observation)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	後期		
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			
演習	1	選択	鄭 曉琳			
概要						
<p>私たちは相手の表情と行動を見たり解釈したりすることによって、その人の心理状態を推測する。本授業では、観察法という研究方法の基本と、観察によるデータの収集および分析の方法について、受講者が実際に経験しながら学んでゆく。</p>						
到達目標						
<p>(1) 人間の行動・心理を観察によって測定するとはどういうことかという基本的な考え方を理解する。 (2) 行動観察データの収集と分析、およびレポート作成を通して、観察法及び分析方法を身に付ける。</p>						
授業内容とすすめ方						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 オリエンテーション 2 時間見本法 3 時間見本法 4 時間見本法 5 データ処理と分析 6 事象見本法 7 事象見本法 8 事象見本法 9 データ処理と分析 10 参与観察法 11 参与観察法 12 参与観察法 13 データ分析 14 分析方法 15 全体のまとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> — 行動観察とは何か — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — KJ法 </td> </tr> </table>					1 オリエンテーション 2 時間見本法 3 時間見本法 4 時間見本法 5 データ処理と分析 6 事象見本法 7 事象見本法 8 事象見本法 9 データ処理と分析 10 参与観察法 11 参与観察法 12 参与観察法 13 データ分析 14 分析方法 15 全体のまとめ	— 行動観察とは何か — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — KJ法
1 オリエンテーション 2 時間見本法 3 時間見本法 4 時間見本法 5 データ処理と分析 6 事象見本法 7 事象見本法 8 事象見本法 9 データ処理と分析 10 参与観察法 11 参与観察法 12 参与観察法 13 データ分析 14 分析方法 15 全体のまとめ	— 行動観察とは何か — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — 理論、技法の説明 — 記録練習と分析の事例説明 — 実践 — 統計の基礎知識 — KJ法					
テキストおよび 参 考 文 献	「発達心理学」山口短期大学					
メ ッ セ ー ジ な ど	<p>子どもを理解するためには、まず、しっかりした行動観察が必要とされます。子どもたちの仲間関係の形成や表現される行動に興味のある方は受講してください。 保育士証：選択必修科目</p>					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 人間の行動・心理を観察によって測定するとはどういうことかという基本的な考え方を理解する。	ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。	ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。	2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度）(30%)	30%
(2) 行動観察データの収集と分析、およびレポート作成を通して、観察法及び分析方法を身に付ける。	十分に調べられて、説得力のある資料である。	調べられて、説得力のある資料である。	調べが不足している、説得力が不足している。	調べが全く不足している、説得力がない	レポート課題 (30%)	30%
(3) 自分の意見を他者にわかりやすく・説得的にプレゼンできるようになる。	堂々と聴衆を見ながら声量も十分に適切なスピードで発表できている	視線や声量、話すスピードとものに一定のレベルに達している	視線、声量、話すスピードを改善する必要がある	発表態度全体を大きく改善する必要がある	期末発表 (40%)	40%